

1. LPSによるゴールデン・レトリバー犬の外耳炎の症状改善
2. LPSによる柴犬のアジソン様症状の改善

古田隆久、佐草和泉（のづた動物病院）

1、ゴールデン・レトリバー犬の慢性外耳炎の症状改善の経緯

生後5歳頃からアレルギー体質による慢性脂漏性皮膚炎および外耳炎を繰り返し発症し、その間、アレルギー体質用療法食等を与え、治療および体質改善を試みたが効果はなかった。

平成26年9月、慢性外耳炎から耳血腫を併発し、抗生物質およびステロイド等による治療を実施したが、耳の痒みが止まらず手足で引っ掻くため、常時、カラーの装着を始めた。

平成26年10月、LPSを毎日6錠ずつの内服を開始した。その結果、内服8日後から徐々に症状の改善が認められ、脱毛についても回復傾向が顕著になった。14日後には、痒みの改善も認められ、カラーを外せるようになった。

現在は、慢性外耳炎を再発することもなく、何ら問題なく生活している。



以上の結果から、LPSは犬の代表的な疾患である慢性皮膚炎および外耳炎に有効であることがわかった。

現在、脂漏性皮膚炎も改善した。また、LPSの服用を中止すると痒がるため、毎日服用している。LPSは嗜好性に富むため、自らおやつ感覚で摂取していると思われる。



2. 柴犬のアジソン様症状の改善の経緯

長年、下痢、嘔吐、食欲不振、震えなどの症状があり、アジソン症の疑いによりフロリネフおよびステロイドの服用を続けている。

最近になって肝臓がんも発見され、他医院から余命半年と診断された。

また、近隣の住宅建築の騒音および塗装工事によるシックハウス症候群などによって体調不良、食欲不振に悩まされ、輸液やステロイドの投与も余儀なくされた。

平成26年9月20日

フロリネフ4錠/日、
LPS 2錠/日

毎日LPS 2錠の服用開始後、徐々に食欲や体調の回復が認められ輸液回数の減少およびステロイドの服用も中止することができた。腫瘍について顕著な改善は認められないが、食欲向上および体重の増加、体力の向上などが認められるようになった。また、フロリネフの減量も可能になった。



のづた動物病院のご紹介

東京都町田市の閑静な住宅地の中で地域獣医医療を目指しております。

近年はペットも高齢化が進み、がんや自己免疫疾患など人と同様の疾病に苦しむことが多くなりました。当院では動物のQOLの維持を第一に考えて、全身麻酔による外科手術や抗がん剤による治療と共に獣医再生医療やサプリメントによる免疫療法なども試みています。

今後もオーナー様とペットが、長く幸せに暮らしていただけるようにペットの健康を幼年期から老年期に至るまでしっかりとサポートしお任せいただける「かかりつけ医」として、これからも皆さまのお役に立てれば幸いです。

のづた動物病院 本院



分院

